

いわい こずえ なかむら じょうじ  
○岩井 梢, 中村 譲治

(NPO 法人ウェルビーイング)

### 【目的】

2000 年にスタートした健康日本 21 は、2005 年に中間評価の年を迎えた。健康日本 21 の市町村計画は、市町村によって計画策定期間は異なり、中間評価はそれぞれの地域で独自に実施されることが予想される。また、平成の大合併で計画策定時と状況が大きく変わってしまったため、評価を行わない市町村もあることが考えられる。しかし、本来、健康日本 21 は住民に最も近い市町村の計画が重要であると考えられる。市町村での取り組みの成果を評価することは非常に重要であると考えられる。そこで、本研究は市町村における評価事例を取り上げ、健康日本 21 の評価の方法、また、その結果の活用方法を検討することを目的とする。

### 【方法】

著者らは、これまで 50 地域以上の地域でヘルスプロモーションの考え方で住民参加を重視した計画策定の支援を行ってきた。今回、計画策定から実施まで支援を行い、住民参加を大事にしながら計画の推進に取り組んでいる 2 地域を選定した(表 1)。そして、2 地域における評価事例を取り上げ、そのメリットとデメリットを検討した。

表 1 対象地域の概要

	K 町	O 町
人口 (2000 年)	34,813 名	9,104 名
計画策定期間	2002 年-2003 年	2000 年-2001 年
計画の対象世代	30-64 歳の男女	40 歳以上の男女

### 【結果】

#### 1) 評価事例 1 : K 町における評価

K 町の評価の目的は、「健康 K 町 21 の認知率、計画取り組みによるライフスタイルの変化を探ること」であった。方法は総合検診の受診者を対象にアンケートを実施した(回答数 2,189)。評価項目は計画策定時に実施した実態調査(2001 年に実施)のアンケート項目より、QOL、主観的健康観、現在治療中の病気、身長と体重、優先的に取り組んでいるライフスタイルに関する質問項目、健康 K 町 21 の認知の 8 項目であった。

K 町のこの評価のメリットは、郵送料などが必要ないため、マンパワーさえあれば予算がなくても実施可能であることがあった。しかし、評価の結果、検診受診者であるため健康への関心が高いこと、女性が多いなどサンプリングの偏りがあるため、2001 年に無作為調査で実施した実態調査とは比較できないという課題があった。しかし、その中でも男性は肥満の割合が高く、甘味飲料の摂取が

多い、若い世代の甘味飲料摂取が多いなど、今後、取り組む課題を絞る上で役立つ情報が得られた。また、健康K町21の認知率が6割を超えていたことで、計画策定に関わる住民と担当者がエンパワーメントされた。

## 2) 評価事例2：0町における評価

0町では、2005年に評価の目的を「計画策定の正当性」「新しい健康教育プログラムの効果」「健康づくりの広がりと継続」「計画推進の評価と改善」の4つに絞って実施した。方法は、厚生労働省市町村評価表、教室参加者の前後比較、フォーカス・グループ・インタビュー、健康に関するアンケート調査と、質的、量的様々な評価手法を組み合わせ実施した。なお、アンケート調査は、健康づくり推進による配布・回収というかたちで実施した（回収数569）。

質的な評価結果より、住民のニーズに即した取り組みができて「手応え」、行政主導とは違う住民・組織の活動ができた「成果の実感」へとつながっていた。また、量的な調査結果より、「行動を起こすために必要な知識・価値観」はかなり充足しているが、「周囲の協力やサポート」「地域や職場の環境」は不足しているための今後のまちの環境づくりが課題であることがはっきり見えていた。

### 【考察】

WHOのヨーロッパ地域事務局ワーキンググループの報告によると、ヘルスプロモーション活動は複雑な分野であるため、従来の医療や予防分野の評価では適しておらず、適切な評価を行うためのルールが確立していないと述べている<sup>1)</sup>。

今回検討した2地域の評価事例では、予算やマンパワーに制限のある中で、それぞれの地域で実施可能な方法を選択し、評価を実施していた。その結果、評価対象のサンプリングなどに問題はあるものの、活動でうまくいっている点、課題となる点などが明らかになっていた。また、評価結果は計画推進の検討資料としてだけでなく、計画実施に関わる住民、職員のエンパワーメントにもつながる可能性を持っていることも明らかになった。今回の調査結果では、市町村における評価のほんの一部しかが明らかにできていない。今後は、評価目的にあわせ、市町村の実情にあわせた評価方法を選択できるようにするためには、さらなる評価事例の集積と分析が必要であると考えられる。

### 【ラウンドテーブルセッションの論点】

- 市町村における評価の目的はどこに置くべきか？
- 市町村における評価方法はどのような方法で行うのが、現実的であるか？

### 【連絡先】岩井 梢

NPO 法人ウェルビーイング

福岡市中央区大名1丁目15-24-2F

iwai@well-being.or.jp

ii 曾根智史, 中原俊隆. ヘルスプロモーション活動の評価. 平野かよ子, 尾崎米厚編. 保健活動の評価. 東京: 医学書院, 2001: 146-147.